

柳大学第二次カラコルム遠征隊
日記 井上達男

1974年9月。無念の涙をこらえ帰国の途に上り、1年と
8月再びハキスタンへ出てきた。
新しい日記の再開である。
ヒンデネスの町は変わらず、そこにあった。
ニールヒン。カンリ。今度こそは、頂上に立ちたい。

1976-5-10. 良く晴れた羽田発。見送り多数。

北京では毛主席のどっかい写真にびっくり。機上の人となり。第2回風のハキ
スタンの旅へ出たわけである。大阪からは井上、木本、居谷の先発メンバーと、小生の
母、居谷の母の5名で新幹線に乗った。10日は羽田にて阪大の石原君や
東北大の中津氏らの一行ともいっしょになる。石原は、P.I.A.の時間が変更にな
っているのに気付かず、とらと乗り遅れてしまう。兄の家では朋子がとても
かわいくなっていて、僕にも良くなっていく。出発の朝は、いっしょに973にのり
行きそうなる気配だった。東京駅で木本、居谷と待合せて973で羽田へ。
そして機上の人となった。7月並の暑い天気の良い日だったが、東京の空気
は、スモッグに汚れていた。機は、四国から九州、鹿児島上空を東シ
十海へ。桜島が煙をおげているのも鼻下に見えた。竹の北京へ。
毛主席の像がどっかかかっている。簡素な空港。中国大陸に足をあ
したわけである。そこからヒマラヤを飛び越して、夜のRawalpindi
へ。再びハキスタンの地へ出てきた。見おぼえのある道を黄色と黒
の973に乗って、なつかしいPark Hotelへ帰ってきた。

51-5-11 (A) ラウルヒンディ

51-5-11 No. 2

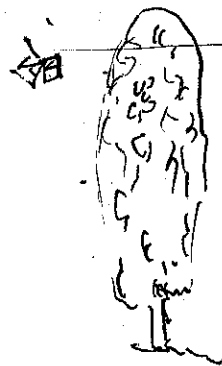
1. Form F の許可書をもらう事
2. 食料を購入したい。規制品目を聞く事。(L.O.と)
3. リゾニの名前他、(未定)
4. フライ機はC130で4Partyくらい1度にはい
5. 荷物はヒンディのP.I.A. カージオフィスにもっていく
アロ氏の Tel NO. 27017. 2703
6. タロシ... スカルド本西Z (P.I.A.) (自宅)
他はPindi本西ZがBetter.
7. Visa.
8. Resistration

Picture of Sherpa

カラコルム通信 No.1, No.2 を書く。2度目のラウルヒ
ディは、なれたせいかわいらしく気がつく。木々の花が
美しく咲いていて、楽しい。

高さ6~7mの木に赤い花がいっぱい咲いていて、実に美

Pindiのインターコンチネンタルホテルの近く
Mrs. Davis Hotelのまわりで見かける。
では、ぬい草(おじぎ草)の木の花が
赤だが、いっぱい咲いていて美しい。田
は暑くてたまらないが夕方からヒンディ
しくなりしのぎやすい。



1. 荷物は イヤホート に運ぶ (21st) May
 2. フロムン, アタン (27) agent.
 コックピットを取って連絡
 Mr. BOKHARI 67011-280
 P.I.A. コンテイナー
 011011モンゴ方法を示し、その以後のことはOKである

1976-5-11

尾谷と Tourism Division へ行き無税通関許可書を2通もらう。
 アタカの分は、前もって送付していかれたので、その場で尾谷がコックピットに行って作る。

4月下旬に送った書類が Tourism Division に着いていなかった。この国では時々ある事だから困ったものだ。幸いコックピットが3部あったのでその日のうちに通関許可書を入手できた。

Tourism Division の Office が Rawalpindi から Islamabad に移っており、以前にくらべ事務所への出入りが楽になっていた。しかし、Islamabad, Rawalpindi 間は相変わらず交通の便が悪く、ミニバスを使う。Government Bus がタクシーであり、近代化はまだまだというところである。

1976-5-12 (3) ラウルピండి
の日の処理作業

1. 日本大使館へ行き神木隊がやってきた事を伝える。渡辺氏に会う。あいさつだけで帰る。
 P.I.A. オフィスへ行き、5月31日のブックイングを済ませる。帰路 Silver Grill へ行き、冷房の良きいたところでサモフライを食べた。3名でミセスデービスホテルへ。蘇夫の中津氏、阪大の石原氏に会い何かと話す。夜は石原ともう一人阪大の若いヤツ多岐我々でファインズレストランへ行き、石原君の壮行会とする。

P.I.A. ではフランスの友人でガニャーブルムに登るのだという勇しいガイドの連中と会い、総重量200kgで全てをやろうとしているのにはおどろいた。200kg/head だからうまくやればできるのかもしれない。しかしどうやってせめるのか一度報告を聞きたいものである。

P.I.A. office では、11月5月30日頃の C-130 便について、積合せのフロムン, アタンの空輪については、11月9日、特別なブックイングを必要とする事、L.O. が決定したら、L.O. を通じて伝達する事であった。しかし、本件に関しては、酸素、ガス etc のラベルを付けて、たよって飛行きのせる事とした。

今井川貞一 敬
 tel 433048
 高城勝 (自宅)
 office, 232783

KING MEMO CARD

4
No. 1976-5-13 (4) ラトルヒンディからカラチへ

Rawalpindiの初仕事は、ますますのスタートであった。屋路君はラトルヒンディの仕事には、
5月13日 SIRAJ A BANATWALA

Rawalpindiのagencyをつけるべきである。
空港の近くに
比べたいぶん
きみに
はついでに
口際空港
21の装飾はくもゆう
なもので、2階にはリスト
ラもできていた。
DC-10を口内線
に使用しているの
も知らなかつたが、
Karachi-Pindhi
間の乗客
数もたい

20会社でプレイゴできる。

8:30 航空717アライズ Agency.

JALBHAY AND COMPANY

1st Floor

NADIR HOUSE

I. I. CHUNDRIGAR ROAD

(opposite police head office)

Phone 23110

Res 70110

MR. JIMMY JALBHAY

どうもよかった様である。
Karachiは湿度が加わって熱い。
事の上ない

200円
Japan club
Tel. 434676
PCHS

JAPAN CLUB
P.E.C.H.S. Society
Main Drigh Road
Near LAL KOTHI

朝の便でKarachiへ行ったので RS 1000-
宿さか比村の時間か決めたので RS 2700-

Res 617925 JAWAID

Jawaid 君が紹介してくれたヒンディの日本語のわかる人。

Mr. NASIM ALTAF

NEC. (ISLAMABAD)

off-PHONE - 21878

Ref: - 21898

Mr Jawaid NIC
Karachi



T.O.

Nasim Altaf

House no - 26

Street - 5

Shalimar - 8-3

Islamabad

(神戸大出身)

SIRAJ A. BANATWALA

Asiatic Shipping Agencies LTD.

日本領事館 (牧内氏) 511331~2

5:00 14/5. 東北本と手合せ

ヒンディからカラチへの便は、ダグラス DC10 約1時間20分。エートの位置が悪く、外の風景は良く見えず残念であった。P.I.A.のスタッフはあまりうまくない。ハンバーガーとサウナー、それにケーキが出る。それだけ。

No. 1976-5-14 (金) (5) カラチ

1. 必要日数, 6 day.
2. 通関手数量の決め方
3. トラックマレージ 3~4%
4. フレートごとかくすすののーケツフ積込む

JALBHOY へ行き、はいやく通関依頼する。

o Urdu in Two Month Rs15 カラチのインストラクターの宿で求める。

o Urdu made easy Rs7

昼食は、カラチのホコンレストランで取る。ゆり時間をかけて中華料理を食べる。カラチは、湿気のせいで外へ出るのが実におくうである。何となくゾット〜としてきて気分が悪い事。この上ない。カラチのタクタクに2軒あったが最初777で行った所は、しまいで火事の知らない所であった。たいたい、1000頃が店の本アオンで、我々はちょうどopenした所へ入ってゆくわけである。

カラチの滞在は、以前のMidwayが高いので考えていたが、Japan Clubにもとまる事ができるのを知っていたので、日航の機スにて、Jawaid君と会う時にとまるかどうかがあたってみたところOKであったので、さっそくJapan Clubにとまる事にした。イヤコン村の茅屋であり、子人入ても均座く、湿気が多くてあつひカラチではイヤコンなしでは我々の様な都会人にはたまらないだろう。このフォキダルのチャチャという籠さんは、此こう日本向けの料理を作って我々日本人を楽しませてくれる。野菜サラダ等も日本風に作るし、味付も此こうなものである。1107ホテル料理も日本人向けにしてくれる。目が少し悪くて、ひまさえあればベッドにたて、水で目をひやしている。もしカラチに帰路よる事があるれば、目薬を持って行ってやりたいものだ。

No. 1976-5-15 (土) (6) カラチ

Pakistanへやってきて初の休日。もちろん二月25日に許可入手にから初日の休日である。Japan Clubの一室で手紙を書いたり本を読んだり全日のday off。明日も日曜日だから休みだが、明日はJawaid君がやってくるかも知れないので、ゆくりはできない。まあ一日休養すれば物であらう。

Pakistanへやってきて、此こう多くの人に会った。

夕べ、居谷が散歩してきて買ったはいたつき。Rs2.50で今日は2ひきのハエとられた。

Post Card 25枚ほど買った。air mailで日本まで Rs2.00 封書など Rs.3.00。イヤコンで Rs2.00 効率の良いのはやはりイヤコンラムのようた。今日は、1107ホテルと1117ホテル、バナナ、オレンジを食べた。

Japan Clubのジョウチャチャ籠さん、目が真合悪く、涙が良く出る。良い薬を持っていないので、イヤコン-Sを7tab与えた。効くわけないだろうが、彼の目は匠着に見てもうべきものだろう。

今日はマツヤーブル隊の2名がRawalpindiへ出発していった。

手紙を書く。母、兄、社長、益田常広、伊東、白井、杉の、本沢、設計一課。

山田玲子さんへの手紙を昨夜書いて見たが、何となく1107ホテルまで、やめた。今日もう一度書こうと思つたが、居谷が彼女に書いたのをテラと見て、自分もなせおしら消せた。これじやまた婚期がのびた……太息。Japan Clubのセゾーキ、下から見て右廻りだ。

(ヒンダイの1107ホテルのファンは、下から見て左廻り。5/30)

No. 1976-5-16 (日) (7) カラチ

8:20 起床. トースト, 卵, チョコの朝食.

朝は曇り、少し涼しい一日であろう。全員快調。

- 5月17日の予定。
 - JALBHORY へ 例によって 8:30 に行く。どうなっているのか聞いてくる。(井上, 居谷)
 - 本, 三井物産へ 何か情報を得に行く。(Telex がかけられは Telex を掛ける)

"カラチの印象"

確か、一次の時、赤線と桔地と表現した様に思う。二度目にカラチへやってくるとずいぶん印象が異なるものだ。道路の整備がずいぶん進んで、イコトから街へのドライロードは部鉄道のオーバークリッジ部を除き完全ホラーさだ。ほこりも、いぶんましになった様である。

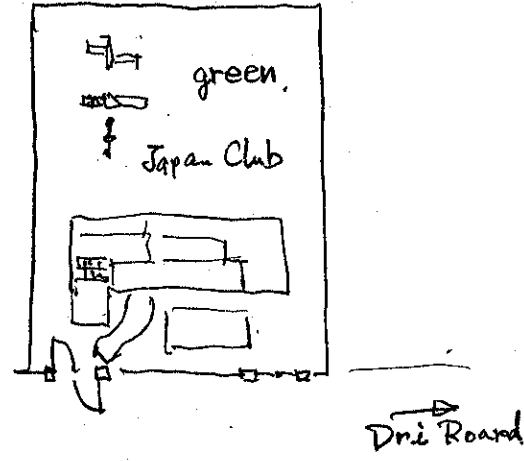
おんぼろ車の数は相変わらず多い事は多いのだが、それでも全体的に質が良くなった様である。上部が黄色で下部が黒の車はタクシーである点変化はちがうたが、X-9-通り走るタクシーが増加したのは良い傾向といえよう。特に北方民族の110ccのオートバイは、ほこりを持って運転しているのが、正直者が多い。

一次の時は山口君と Hotel Midway house に滞在していたので、何とも Downtown に遠かったが、今回はジャハンクラブにいたので近くの住宅街も散歩でき、若い娘さん達にも多く会った。又、9970 あたりは、近代的な、ショーウィンドーの街並もあり、少しは広く、110cc オートの最大の都市、カラチを知る事ができた。

1976-5-17 (月) (8) カラチ

7:30 起床。朝食を干パンのトーストで済ませ、井上, 居谷にて JALBHORY へ行く。ミニバスでカラチのターミナルへ。50110cc. そこから3輪車タクシーに乗ったところ途中で故障。RS1.00 を払ってから乗りかえ 9:00 に着いた。通関の者がたいてい進んで、荷物は完全に陸揚げされたとの事である。

本の方は、三井物産へ行き、前田さんへ Telex を依頼し、一旦 Japan Club へ帰って3人そろい昼食をとる。昼食のとき小さな商社の方が日本食が食べたいと Japan Club へやってくる。中東のあれこれを書く。兼松のカラチ支店に、あいつに行く。東北大のぐろをたつぷり園かされて、次には、カラチの生活の不満と不安も園かされた。商社員としての仕事に口を、Exp. の連中が半面を取らせる様で、あれはぐろの出るのも当然の事であろう。ただ単に知らないからといってこちらの日本人に全くたより切ってしまうのは、自分で Exp. を進めてゆかした意識も薄らいてしまうだろう。



No. 1976-5-18 (水)カラチにて.

18日 + 19日 朝8:30に Jalbhoj へ行く. 長崎の上とかが無の

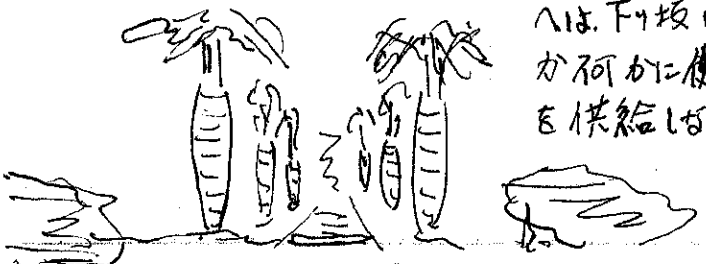
- Ferry 7, with Passport,
- 通関手数料他 Agency 料は. 申告価格の 1.75% である.

Mr. Jalbhoj の + 荷物が無いという言葉には一瞬たろいたが. とにもかくにも明日 保税倉庫に行き 確認お事で意見が一致.

○ Near Jabees Hotel.
 Missho-Iwai Co. LTD.
 Mr. Joriki Kinoshita
 3th Floor Rock Court, Abdullah
 Haroon Road, Karachi,
 phon. 5/1001 ~ 2

夕方. BALI というインドネシア料理のレストランへ行く. ドルの換金の打合せをし. 明日夕方. 換金お事で話をつける. #100札と#50札は Rs 10.5 で #20はRs10.4で交換できた. このバリレストランは 7/7ロードの Central Commercial Centerにある. レストランを始めて. 1年半くらいが. 良くやっていると思う.

Bali レストランと Japan Club の間. Bali のすぐうしろに池のある公園を発見. 下図の木と並木と草のある公園で. Japan Club



へは. 下り坂になっている. ため池か何かに使っているのか. せきで水を供給しただけはならないはず.

near Bali

1976-5-19 (木) 00) カラチ.

○ 0am 8:40 JALBHOY Co. に行く. カラチホトへ入り我々の荷をフェリーにお. 心配していた Pde も見つかり. これでヒンディへ隊荷を発送お事が可能となった. (110スに Jalbhoj の Rs10. つかす).

○ 木本は. 東京銀行へ行き #350を換金する.
 ○ 昼一番から居るは. North Port of Gate of Karachi port へ行き

いよいよトラックローディングを確認する.
 小生は. 日商岩井のオースに Jawaid 君と話しをするため行く. 木下さんという所長に会い Jawaid 君の 94 歳の勤力についてお礼をのべ. 遠征について説明する.

16日付と18日付の読売新聞がどとき. 久々に日本の情報を得る. 三木内閣は. そろそろ危うくなる様な感じである. 輪島巧一の世界タイトルマッチがある様だ. 結果はどうなったであろうか?

Japan Club の マネジャー
 JAL FRAMJI KHAMBATTA
 No. 15 Fatima Jinnah Road,
 Karachi - 4 . Pakistan.

No. 1976-5-20 (木) (1) カラ → ラバルコンティ

- o am 8:30 JALBHOY Co. 支払いRS2952.36.
- o am 9:10 日本領事館. 牧内氏へ会う. 平井先生おての名刺をいただく.
- o カラコルム通信No.7を書く. 母へ. No.3倍出さず
手紙とも別紙をつけ 若し木本. 居るのために717トンビまでター
を飛ばし海を見に行く. Japan Clubから717トンビまで行ってair
portまでター3のターはRS20であった. ビーチでのウェルディングに
10RSを支払った. 空港ではフライト待のため. LSTRANへ入り
ビールを飲む. ビン一本25ルピー. ウェルディングフライトはPM 6:00で
あるが今日は何だか知らぬと待たされる. 今はすでに6:15まだ
ランジで待っている様な状態である.

機は707. ちょうど翼上の席で下が見えず. カラ郊外の石の
漢も見えず. 窓外に見えるはずのカラコルムの銀塔も暮れゆ
く夜のとばりに消えてしまて何も見えずじまりであった.

飛び立って一時間ほどたったであろうか. 窓外に積乱雲が
発達し. カミナリが中で光る. ラホールあたりであろうか. 今だ
ストールに会っているのかも知れない.

Islamabad Air Portへの着陸は. ちょうど翼上の席にいた
せいか. 大きな音がして. きみが悪い. ラバルコンティはや
はり涼しい. 機外へ出て. よい風がこぼち良い.

今度はPark HotelまでRS10-で帰ってくる. 1107ホテルは
No.9のルーム. やれやれという声しきりである.

機内には一人パンジャブ美人がいた. あか坊をだいた人妻だけ
ど. 目はほつちり. 色も白いし. ぽんぽんしました.

1976-5-21 (金) (2) ラバルコンティ

今日は. 小生一日中Park Hotelの中で書類の整理と. 資料
作りに精出す. 本隊着後の仕事について整理しておく.

母から手紙がきている. 朋子がJ-9をしているらしい. (No.1)
9日ほどかかっている様だ.

入件費の計算をやってみたところ. 行きのカラバン7日分の食料を
与えた場合. とRS15/day与えた場合を計算すると. 往路は食料を与え
て. 帰路は食料を与えないとしたら. 最少Costで行ける事がめめ
た. これに従い. 食料は店后君作成の表をどっくり全部購入する事
とした.

コンティ → Skardu 4,500kg

Skardu → Khaplu 4,660kg カラコルムで食料を与える.

Khaplu start 3,660kg

このやり方で計算すると. 差額として25%浮く事になる. 予算
内に収める事として. ここにも一つありほとする. あとPindiの滞
在費であるが. これもBookingを済ませてあるのだからよくやれ
ば. 計画通りとなり. 問題ないだろう.

“トラ.7到着!”

夜中のおう2日におが. 1:30. カラからのトラックが着く. 19日夜
にカラを出発し. 無事隊荷を. 1107ホテルへ運んでくれた.
トランスホトのオーステッポ. カラ通関. オーステッポはコンティ着
である. このオーステッポまで無事終了しゆけである. 居る君
の仕事もここで一段落. コンティからは. 全員がその任に當り.
やていくのである. セブエスエズのトラックには. 4人が乗って来て
きた. 6で. RS470-を支払い. 夜ふけの町へ去っていった.
受取りに遠征隊のトラックをスタン70してやるとよ3人で帰っていた.
それにもねむいねむい

No. 1976-5-22 (土) (B) の ラウルビンディ

木本 居居君は食料の買出し、更に要領よくまとめているせいか、一日でほとんど全ての品物を購入してくれた。小生は腹ぐわいがちよって悪く、先行がすくぬいで Park Hotel でぶらぶらしている。後等もすっかり Pakistan 慣れたのか、もうほっておいてもどんどん仕事をしてくれ、すっかりまかせられる様になったのはとてもうれしい。

11-7 Hotel の Room No. A2 を借り、荷物を入れる。食料を含めるとほぼいっぱいになる。荷はほとんどダンボールも傷つかずに抱てきた様であるが、中味がしっかりつまっているものほとんどが壊れている。

Mr. Aman 氏へ Tel. L.O. について聞くも決まっておらず、情報を得ていないと言うべきかも知れない。

午前 9:00 から Park Hotel のボーター モーターをつれて木本 居居君は、バザールへ買出しに出かけた。夕方 5:00 に今度は、ギーと、干菓を買出しに出掛ける。ギー、干菓、チャイは、の製品らしいという事がわかった。か買ってしまふ。まあ L.O. も午食がはぶけてよからう。

本隊が来るまでの仕事として、装備、食料の購入と、ビンディまでの隊荷のトラックが主要な作業であったが、これらをはほぼ終了して、本隊の到着を待つわけである。あとのごたごたは、平井先生にまかせておけば良いだろう。木本もしっかりしていることだし、何とかなるでしょう。制限といっても、いかげんなもので、売方とすれば金さえ出せば何でも売れる様である。物不足の国での exp. は何かとやっかいなものである。

PM 6:00. 気象観測をやる。居居君が買出し中のため、しかたがなからう。直射日光が計器にあたっていたので PM 6:00 ~ 6:00 までの Data は正しくないであろう。

PM 8:00 フェイン君がやってくる。5月25日にレジメンオフィサーからこちらへ来る様、手配したとの事である。この情報を知ったので

彼はある意味で役に立つ男である。16mm フィルムのテイクを送ってほしいとの事。その他、山の写真についても送ってほしいとの事である。

相の最高気温 42°C

最低気温 26°C

気圧 949 mb

ラウルビンディの高度は 500 m ほどか、内陸性の気候に近い。

(ラウルビンディで行先所)

1. Park Hotel.
2. P.I.A. Cargo Office
3. Tourism Division
4. Telegram Office
5. Post Office.
6. Silver Grill
7. ラジャバザール
8. サターバザール
9. イヤポート
10. 日本大使館.
11. Rationing Controller
12. Inter Continental Hotel
13. Mrs. Davis Hotel.
14. Alfa Insurance Company. Ltd.

No. 1967-5-23 (日) (04) ラウル ヒンダイ

腸具合も食費もかきしすと良くなる様だ。今朝の便は
かなりやめらかくなっていたが、これでじつともちこたえた様である。
11時ごろまでごろごろして、12:00になってからインターネショナル
ホテルへ行って昼食をとる。がらんとしていた中
インターネショナルスタイルの昼食とビールを味わって帰ってくる。ビールは相
変わらず高い。

帰路のタクシーの運転手にタクシー往復の交渉をやってみたところ
半日でRSDという事であった。山から帰たら一度行って見たい。
山のおとの旅行としては、カガニ谷、千トラレ及び、タキシラなどで
活動してみよう。明日は、いよいよ本隊の到着である。

田中八郎君の絵葉書を送る。
居谷が痰水を出した様である。ギリギリまで、ぬえている。今日一日ゆっくり
休養すれば良くなるだろう。
ヒンダイで一次の時は2回ほどスクールに会ったが、今回は5/2
に少し雨がぱらついただけでまだスクールに会わない。ここ
二日ほど高温が続いているし、そろそろスクールがやってきて涼
しくなってくれるといいのだが。

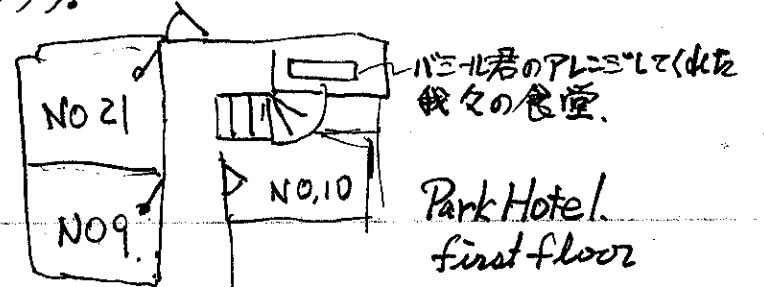
PM4:30 その期待のスクールがやってきた。強い巻を風にも雨、
気温がぐんぐん下って、40℃からついに26℃まで下ってしまった。
スクールのおとの涼しい事、この上なしである。
夜秋山氏と夕食を共にし、あと、ラジヤバガールの映画館へ、ラ
ドゥ映画を見に出掛けた。1967年のパキスタン独立につ
いての - エピソード いったところか？

1976-5-24 (月) ラウルヒンダイ

10:00起床。今夜の本隊着にそなえてゆっくり寝ておく。予想通り
便は正常にもどっていた。
花札をやつて時間をつぶす。
夜、身づくろいを完了し、Tourism DivisionのMr.フセイン
君がPM9:40頃やってくる。サザールのミニバスステーションで、
イスラマバード空港行をタクシーし、本隊の出迎えに行く。
(タクシー料はR360であった)

No. 1. Kodacolor II. 35x36 EX. フィルム。
カラテからおと使っていたが、今日の本隊出迎えでや
終了。空港ではミニバス入荷を積むところ等もとておいた。

夜のIslamabad, International Airport. 北京経由
のボーイング707は、ジェット音高く遮断路をターミナルへや
てきた。Doctor, 中村兄, 平井先生等の顔もある。
通関の本続をうけもち、Form Aを申請し、30分ほどか
て無事終了。パークホテルの部屋におちついてお水こね話
しているうちにすっかり遅くなり、3時頃ようやくぬむりに着いた。
日本の新聞と週刊誌等持参。それより久しぶりに皆に会う気
がして、すっかり目もさえてしまった。
バニール君の準備のおかげで、2階のNo. 10, No. 21のルム
におちついてもらう。



1976-5-25 (K) (16) ラウルピオンティ

平井隊長、田中副隊長、居谷、井上の四名で Tourism Division
へ出頭。リエゾンオフィサーを要求する。

本隊のイナカン箱についても許可証をもらい、田中、居谷にて通
関に行ってもらう。

平井、井上は、日本大使館へ行き、あさつ。

我々(平井、井上)は、田中、居谷と別れてから、帰りはミニバスにて、2名
で Rs 2.00 にて Park Hotel へ帰った。

"カール・7セイン君"

Tourism Division の Assistant マジオ付カセットテープユダ
がほしくて我々の本隊に持ってくる様要求していたが、小生のカ
フィルム通信のオモ信が着かずに、どうも車に入れる事ができな
かた。それでも、コダックのネガフィルム2本を車に入れて帰って
来た。今日は、Exp. の後でないと、またせむいと言う事を言
てやるさず、いばん落胆した様子であった。

今日は、Exp. の後でないと、またせむいと言う事を言
てやるさず、いばん落胆した様子であった。

彼は2年前も良く我々のいる Park Hotel へ来てきて、食をた
らふく食べて帰ったものだ。今も良くいらしている。

1976-5-26 (K) (17) ラウルピオンティ
食料の買出し及び倉庫の荷物の整理にあたる。

"ピオンティで味わう果実"

○ カルダザ (メロン) 外の白いのと、茶のしまのものがある。
Rs 4 / セル (2ホコト) で車に入る。味のいいもの
と、水くさいものが極端で、外観では見分けが
つかない。

○ オレンジ ジュースがうまい。そのまま食べるも
のは、中味が真赤なやつがいい。水々しくて、甘く、う
れしい。

○ マンゴー 5月はまだ外が青く、きつにおいも
ある。こいつはうるし科だそうで、口のまわりがかぶ
れてしまう事もあるそうだ。ジュースは、アップル
というものがビン入りである。

○ ウォーターメロン すいか。味は大味。それでも 10kg
ぐらいの大きなものは、うまい。

○ バナナ 木でおからんだやつだから味はホ
ットマンチヤ。果糖がすぐにまわってしまうので、買
ってすぐに食べる必要がたぬ。

○ グレープフルーツ ジュースもよし、生のまま食べるも
よしである。

○ イチゴ そろそろ出はじめた様だが、これは一
番下痢しやすい果物である。(日本でも梅を食べ
すぎると下痢する)。

○ セーブ (リンゴ) まだ買って食べていない。

1976-5-27 (木) (18) ラワルピండి

Tourism Division に出頭。リエソンオフィサーのさいぞくをする
がまだ未定との事

Rawalpindi 出発までに着ませる仕事

1) 保険. Insurance

Alfa Ins. Co. Ltd. Mr. Raja Tel. 68349

2) Registration Inspector Chaudhury Tel. 63866

3) Pakistan Broad Cast. Mr. Kurbski Tel. 43883

4) Briefing

Mr. Muzaffar - UD - DiN

to Tourism Division

この人 Tourism Division で Briefing の時に顔を出して我々の遠征隊が許可通りにやっているかどうかをチェックにやってくる。今年は、たいぶやめらかな感じになっているが、今日は日本の切手を子供のためにほしがっていた。

1976-5-28 (金) (19) ラワルピండి

夕方腹いらい悪化。110キスタンへやってきて初の下痢。
相の平定

○砂糖の買出し。rationing controller の許可がぬけられた
100kg 程度しか入庫できず。しかも、210kg 中 110kg
は、やみで買う事になった。~~結核~~ 居谷、広石、岡本。

○ギーのつめ変更。110キスタン製のポリタンを購入し、ギーをつめかえる。(田中、木本)

○P.I.A. (井上) office へ行き、情報入手。ホラド隊、おとし隊、せんしの隊が残っており当面フライトの見込が立たないという事である。(am 9:00)

P.I.A. Office. Tel. 67011 ~ 273.

Mr. Asim Riaz (Xガネザルの男)

Mr. Zabar. (少しハゲの出腹)

来週は、C-130 が来るだろうと言うが、そこは Pakistan Pace だいが待たさぬような気配である。

本日もリエソンオフィサーはやめている。

夕方、Tourism Division の Mr. Awan 氏が Park Hotel へやってきて、いろいろと情報をくれる。Rawalpindi での滞在費が高くつくであろうからスカルドへ行く。スカルドにて L.O. を待つが良いとの事である。これは助かる。

梱包110キスタンを完了し、あとは、リエソンオフィサーと飛行機待ちである。この分では6月10日頃のフライトになりそうな気配

1976-5-29 (土) (20) ラブルピオンテ

下痢。食事を控えて、抗性物質をのむ。
ぬ不足と思われるので一日中ぬる。一度P.I.A.に行き、フライト
についてたずぬる。

中村氏と Alfa Insurance Co. へ出掛け、保険の条件に
ついて打合せ。

昼食時 坂つかいピストルフェルカと再会する。国会ビルを
写真を2枚やる。秋山氏への伝言も受ける。

平井先生は、ホーランド隊の人と連絡をとり、明日 pm 6:00 キャンプ
サイトに行く事を約束する。

“学術、写真関係でやるべき仕事”

1. 測量について。
 - a. 観測野帳の作成。
 - b. Data処理の計算。
 - c. トランジットの取換、説明。
 - d. Sherpi 高度の測量、略図、とピク番号の作成。

2. 写真関係

- a. データカード (filmカードの作成)
- b. フィルムリストの作成。
フィルムサイズ、No. 必要データの記載

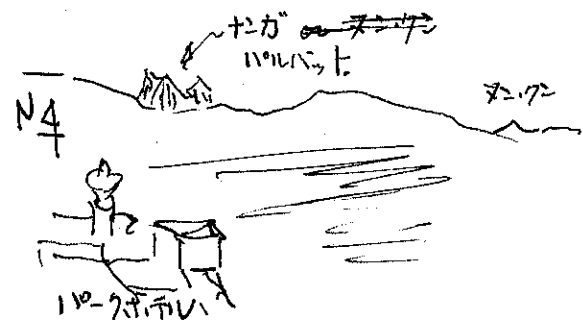
夜、バシル君は、田中、岡本、鶴谷 尼らを引き連れて映画へ行
た。

1976-5-30 (日) (21) ラブルピオンテ

1107ホテルの屋上からイスラマバードの北々西に雪に
輝くピークを発見。双眼鏡を通して見るピークは遠く
はるかにおおみ。またまたカラコルムは遠い事を、思い
知らされる。

暑い。気温 41°C (pm 3:30)。湿度 15%。そして遠くに
雪のピーク。強烈なジント
ラストではないか。
今日は朝食は貧く。

11:00頃、レニスカーニエと
フェスのみとする。
昼食。ユニフレイクス&
ミルクというのに、オレンジ
ジュース。それにサラダと



干キンフライドライス 食後に紅茶。けこうな食事である。
下痢の方はどうやらスト、そしてどうな気配である。抗性物質
は、必ずのむ様にしている。今日はP.I.A. 通いは、平井先生、
田中、鶴谷 尼達にお願ひし、小生は、沈、明日、pm 2:00
にデッキンクに来る様に。Xカネザル君が言ったそうであ
る。Doctorにくすりもらう。

一次隊のシバルの写真を使てルートの研究をする。西後は、取付きと、
シヤンクエニピーク (P9) が最も困難なルートとなるものと思える。
しかし、こうしてじっくりと見ているとだんだん関心もわいてくる。

“ホーランドの保険”

L.O. H.P. に関しては、1名と5名。きちんとかける事と、Fが
ロ-ホ-ランドの保険については、往路、干キの下からの50名

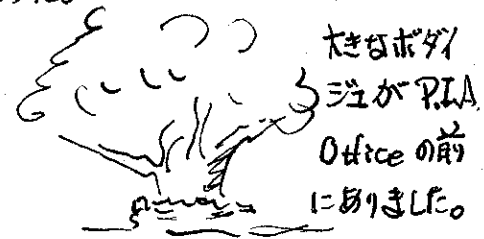
と、帰路の40名についてかける事とした。

"ホランド隊とMeeting"

ホランドのK2 Exp.の110-フィートをイヌマバードのキャンプ場に訪ねる。平井、岡本、井上、居谷の4名。大型トラックではいるや、できた。総重量2トンあるそうだ。この隊が早くスカルドへ入ってもらわなくては我がのフライトは、いつになるのかめかたものではない。ともかく、ジバスでイヌマバードへ。P.I.A. オフィスの前の森の中にキャンプ場がある。もちろんこのキャンプ場はヨーロッパスタイルのオートキャンピングであり、車でやってこなくては意味がない。ホランドの隊は、ナショナルチームであり、スノー、スキー、ガン、ジャングル、キンヤンギ、エト等の遠征隊の経験者を集めた強力チームで、医者2名を含めた19人のK110-フィートである。

夕暮のキャンプサイトで、1-7-1とごちそうになる。往復の量産はじめてR38-の出費であった。

今日は久しぶりの果実デー。すいか、メロン、オレンジを食す。夕食はツツカバーブ、スー7°ですませた。



大きなボディーがP.I.A. Officeの前にあります。

明日の仕事

- 1) am 8:00. Tourism Divisionへ出頭。レポートした。
- 2) P.I.A. OfficeへBooking. (チケット持ってゆく事)
- 3) 写真の台帳を必ず作る事。

1976-5-31 (A) (W) ラブルヒンディ

Tourism Divisionへ鶴谷、広田の3名で行くが、あたま今日は特に暑い。少し歩いただけでふーふー言うほどである。

田中、中村、徳はP.I.A. OfficeへBooking打診に行く。

夕方から映画を見に行く。シヤブナムの映画。

映画の帰りに110キスタンの女性と会う。

名前はMinnoさん独身。日本に6ヶ月いて、先月帰ってきたそうである。明日、Park Hotelへ遊びに来る様言う。

今日は実に暑く、イヌマバードの消防署からTourism Divisionへの道を歩くと、靴がとて暑くなりたまらぬ気分であった。